

知的欲求

大学院生 大植 祥弘

本年度より大学院に進学し、病理学教室での短期研修終了後、岡山大学の免疫学教室に特別研究生として在籍しています。当教室では中山教授のご指導のもと、新規癌抗原による癌ワクチン療法の開発に向け、基礎および臨床の両面より研究を行っています。

大学院に進学し基礎より臨床医学を見直すことによって非常に多くのことに気付かされ、呼吸器学は奥が深く、しかも面白い！ということ再認識しています。現在の研究テーマは腫瘍学の中でも腫瘍免疫、とくに癌免疫療法についてですが、腫瘍に対する免疫反応を学ぶことはアレルギー疾患の免疫反応を学ぶ事でもあり、また癌ワクチンの開発の原理は感染症に対するワクチン開発に見出すことができるなど、そのすべてが相互に深く関係し、まさに「何一つとして学問には無駄がない（岡教授がいつもおっしゃっている）」と実感する毎日です。また当教室の中山教授は癌免疫療法の第一人者であり、世界最先端の領域を研究され、教科書に書かれている内容の裏の裏、はたまた未解決な部分や解決に至る可能性など非常に多くのことを勉強させてもらえ大変貴重な経験だと思っています。

新しい仲間にもたくさん巡り逢うことができ一学生として、“よく学び、よく飲み、よく語り”を実践していきたいと思っています。毎日夜遅くまで真理に向かって語り合うその楽しさは言葉では言い表せません。人には（特に私には）煩惱がありますので、ついつい目先のことに囚われてしまいがちですが、知的欲求を満たすことがこれほど快感であったとは思ってもよかったです。岡教授は常々、「人には予期や意図せぬ出会いが幾つかあり、それが貴重な出会いである」とおっしゃっておられますが、今自分がこの岡山の地で免疫学を学ぶことなど全く想像もしていませんでした。なぜなら・・・学生時代、唯一勉強を真面目にやらなかったのが免疫学だったのです（医学の中で嫌いな分野は無いのですが免疫学については学生生活に忙しくテストのための勉強しかしませんでした）。医学を志す者は、諸先輩の英知を余す所なく学ばなければ、いつかツケがまわってくるのだと反省しています。

今年度は新入局員として池田先生・黒瀬先生を迎えます。昨年は阿部先生が入局されましたが、3先生は尾長谷・大植チームで研修をされました。わがチームは、何と2年間で7人研修医の先生を指導し、そのうち3先生が入局していただけるという快挙を成し遂げています。私の指導は非常に厳しいとの研修医の中では有名だそうです・・・私をこの呼吸器に導いて頂いた恩師の先生は、非常に熱心かつ丁寧に毎日夜遅くまで指導していただいたことを昨日のように思い出します。その御恩を忘れない為、また岡教授のおっしゃる「大学は人を育てる場」に少しでも貢献できればと思い熱血指導を続け、その中で彼らが何かを感じ取りこの呼吸器への入局を決めてくれたのでしょうか。そう思い込んでいます。

私の特技は学生時代より“人集め”で、学生時代は多くの人に支えられてきました。この特技を少しは発揮できているのかも知れません。

岡山へ来て今年で四年目になりますが、何ができ何ができなかったのか、またこれから何をしなければならないのか、という事をもう一度自分に問い直し、真に人類に貢献する真理の探究という目標を持って、いろいろな出会いの中で学び、感じていけるようこれからも努力していきたいと思っています。～ Mastery for service ～



(筆者：左端最前列)